

## 令和5年度 学カスタンダード指導計画・報告書

教科：(国語)科目：(現代文B) 対象：(第3学年 1組～6組)

科目担当者：(1組、2組:佐藤 遼子<sup>印</sup>)(3組、4組、5組、6組:三縄 亮<sup>印</sup>)

教科・科目の指導目標	学カスタンダードに基づき、基礎的・基本的な知識・技能の確実な習得を図るとともに、思考力・判断力・表現力の育成に重点を置いた指導を行う。
------------	---------------------------------------------------------------------

	高校入試等の分析結果・前年度の学カ調査分析結果	分析結果を踏まえて検討した指導内容	指導体制の確立
年度当初	1 漢字の読み書き、語彙等言葉の知識 ① (漢字の読み、語句の意味) ② (表現の知識) ・基礎的な読み書きは概ねできているが、慣用語、四字熟語などの知識に乏しい。 2 文章読解 ① (評論文読解) ② (小説文読解) ・論理的な文章を読むことが苦手である。また構成を工夫しながら、目的に応じた文章を書く能力も低い。また、記述問題の回答率が圧倒的に低い。	1 国語の常識プラスを利用し、漢検準2級程度の読み取り、3級程度の書き取りの力を身につける。合わせて、漢字検定の受検を勧める。 2 語句や漢字を調べる習慣を身につけ、語彙力を高める。 3 文学的文章を読み、叙述や描写に即して、登場人物の様子や心情などを的確に理解する。 4 論理的文章を読み、文章の構成や筆者の主張を正しく読み取る能力をつける。また、論理的文章を書く力をつける。 5、進路を見据え、論理的に話す、書く能力をつける。	1 漢字や語彙の課題を課し、定期テストにて範囲とする。 2 単元導入時に語句の調べ学習や、要約学習を行う。 3 ワークシートや発問の工夫をする。 4 根拠を基に主張を述べる文章を書く時間を、積極的に設ける。 5 便覧やICT機器等を活用してに国語に対する興味関心を引き出し、積極的に国語を学ぶ体制をつくる。 6 アクティブラーニングを取り入れ、生徒の主体性を育む。

	生徒の変容	生徒の学カの定着状況	次年度に向けた指導体制の改善
年度末			